

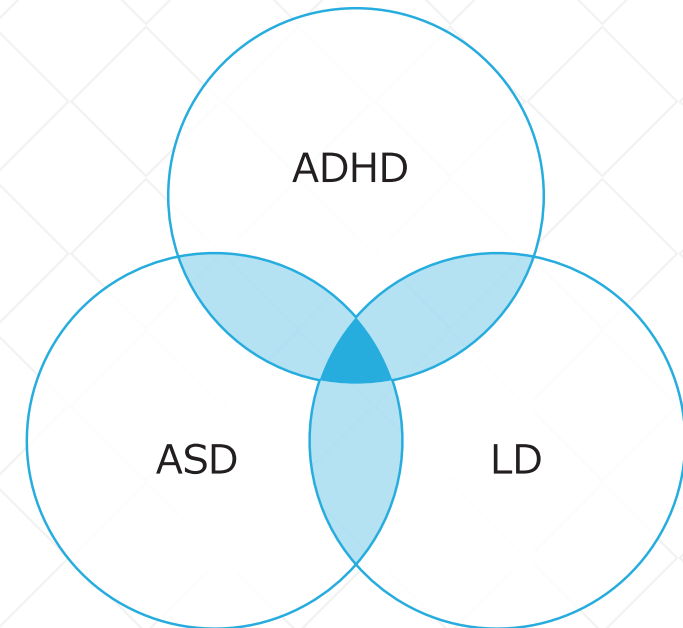
# ゼロからわかる発達障がい

発達障がいはクラスに2人も

発達障がいとは、脳機能の偏りから行動や情緒に特徴が見られることだ。その数は約6.5%と言われており、30人のクラスであれば2人は発達障がいを持つことになる。その症状は幼少期から発現し、大人になっても治ることはない。

発達障がいには主に「ADHD（注意欠如・多動症）」、「ASD（自閉スペクトラム症）」、「LD（学習障がい）」の3種類があり、各障がいが重複する場合も多い。時として、障がいによる周囲との不調和から、鬱や引きこもりといった二次障がいを引き起こすこともある。それゆえ、周囲の人に求められるのは発達障がいを「理解」し、自分にできる「支援」を行うことだ。

当企画では、3種の発達障がいの特性や発達障がい支援団体へのインタビューを掲載する。



教えて！ ADHD

ADHD（注意欠如・多動症）は不注意、多動性、衝動性という3つの特性を持つ、生まれつきの脳機能の障がいである。

不注意とは注意散漫で物事に集中しにくい状態で、忘れ物や整理整頓の不得意が見られる。多動性は無意識にそわそわしてしまったり、静かにしなければならぬ場面でお喋りをしてしまったりする。衝動性は、列に割り込んでしまふなど、してはいけないと分かっていることでもブレーキをかけられない状態だ。

特性の現れ方は人によって異なり、不注意が目立つ「不注意優勢型」、多動性・衝動性が目立つ「多動性・衝動性優勢型」、全ての特性が見られる「混合型」という3つのタイプに分類することができる。その症状から、公共の場や集団での行動を苦手とする場合が多い。

ADHDは薬でも治る？

ADHDの症状を緩和する治療薬があることをご存知だろうか？ 薬の種類によって効果は分かれるが、ADHDの特性である不注意や衝動性、多動性に対して大きな効果を持つ。実際、服用すると落ち着きが出る、集中力が増す、イライラやかんしゃくが減るなどの効果があり、当人やその周囲の人間に非常に大きな恩恵をもたらしている。

しかしながら治療薬は大きな効果を持つ一方で、危険性もある。薬はあくまで短期的な対症療法であり、効果が切れるとまた症状が出てしまう。薬に頼りすぎた結果、症状と向き合う意識が薄れてしまうかもしれない。

ADHDの治療法は薬以外にも、社会に適應する訓練も推奨されている。こちらは本人の意識を根本から改善するための、長期的な原因療法となる。ADHDの治療には薬も有効に使いつつ、症状と向き合うことも大切ではないだろうか。

あの偉人も発達障がい？

討幕の立役者である坂本龍馬。彼も発達障がいがあったと言われている。

一説によると、彼は10歳でおねしよをし、勉強が苦手で虐められていたそう。また、剣術を短期間で習得した過集中の傾向がある一方、人の話を聞かずによく居眠りをしていたという。これらのエピソードは学習能力の不足や過集中・不注意の傾向を示し、発達障がいの特性に当てはまる。

日本有数の偉人である彼もまた発達障がいを持っていたのかもしれない。



## 教えて！ ASD

発達障がい的一种である、「ASD」の特徴は大きく分けて3つある。1つ目はコミュニケーションや対人関係における困難だ。場の空気に応じた言動を苦手とするため、しばしば周囲のひんしゆくを買いやすい。加えて、他者への興味が薄く、曖昧な表現を汲み取る能力が低いいため、意思疎通でトラブルが起きやすい。2つ目はこだわりの強さだ。ルーティンが崩れることを嫌い、急な予定の変更や環境の変化が生じるとパニックを起こすこともある。3つ目は感覚過敏だ。ASDは五感が敏感であるという特徴を持つことが多いため、賑やかな場所や光の強い場所を避ける傾向がある。これらの特性は社会生活に支障をもたらすことが多く、孤立感を招く要因となりやすい。

決まったものしか食べない？  
ASDに見られる「こだわり」



ASDによく見られる特性として「こだわり行動」というものがある。

具体的には、ある特定の対象に異常な執着を見せる、習慣の変化を嫌うなどその人なりのこだわりやルールに固執するといった行動のことを指し、特定のメーカーの特定食品しか食べない、同じ行先には同じ道順で行きたがるなどの行動が例として挙げられる。これらの特徴は障がいの特性によるものであるため、本人でも意思をコントロールできない場合がある。「こだわり行動」を強制的にやめさせようとしたり、叱責したりすることは本人にとって大きなストレスになってしまう。

「こだわり行動」には段階的なアプローチが効果的だ。子どもの場合、急な変化に弱い子には手順や予定をあらかじめしっかり伝える、偏食をする子には違う食べ物を少しずつ与え、食べられたら褒美をあげるなどのアプローチをすると良いだろう。焦らず適切なサポートをしていくことで、負担の少ない日常生活を過ごせるようになる。

天が与えた才能？  
ギフト教育が学ぶには



「ギフト教育」という言葉を聞いたことはあるだろうか。先天的に突出した知的能力を持っている人を称する言葉だ。

彼らはその能力の高さゆえ、学校の授業へ不満を持ちやすい。そのため、学習意欲をなくしてしまったり、対人関係に課題を抱えたりすることがある。彼らを支援するため、世界に先駆けてギフト教育に取り組んでいるのがアメリカだ。サマープログラムや放課後スクール、飛び級など特性に合わせた様々な学習プログラムがあり、子どもの興味や能力に合わせて深い学習を進めることができる。

日本でもギフト教育の動きがある。二〇二二年現在、日本の一般社団法人がジョンズ・ホプキンス大学の開発したCTYPプログラムを導入しようとしている。ギフトの才能を引き出すための適切な教育が、日本でも当たり前になる日は近いかもしれない。

なかでもギフトと発達障がいの特性を合わせ持つ人は「2E (twice-exceptional)」と呼ばれている。



## 教えて！ LD

LD(学習障がい)とは、全般的な知能の発達に遅れはないものの、読み書きや計算など特定の領域に困難を持つ発達障がいの総称である。その特性は読字障がい・書字障がい・算数障がいの3つに分けられる。

読字障がいは文字を読むのが極端に遅く、読み間違いが多いうえ、内容の理解が不十分な場合もある。書字障がいはバランスの取れた文字を書いたり、似た音の文字を書き分けたりするのが苦手だ。算数障がいは数の概念の理解や計算の習得が難しいことが特徴である。LDは他の分野に発達の遅れがないため、支援の必要性が認識されず「怠けている」、「努力が足りない」として叱咤され、自信を失いやすいという問題がある。

## 支援に必要な合理的配慮とは



「合理的配慮」という言葉を聞いたことはあるだろうか。この言葉は、障がいのある人が日常生活を不便なく送れるように、無理のない範囲で配慮することを指す。

ここでは、発達障がいの一種である書字障がいを抱える生徒に対する合理的配慮の例を紹介する。書字障がいは文字認識や筆記が苦手な特性を持つ。そこで、書字障がいの生徒に対し、タブレット端末を用いて定期テストを受けることを学校側が許可しているという例がある。身近なツールであるタブレット端末を用いることでそれほど負担もなく配慮ができる。そのため、この取り組みは高校受験にまで広がりを見せている。

このように、「合理的配慮」は障がいのある人にも支援者にも優しい配慮のあり方を目指している。

## みんなが読みやすいUDフォント



LDのうち、「読字障がい」と「書字障がい」を持つ人にも読みやすい「ユニバーサルデザインフォント」(以下UDフォント)が様々な会社で開発されている。UDフォントは文字を書くときの手の動きを重視して形作られているほか、画数を減らす、文字の作りの上での隙間を大きくとるといった工夫がされている。

UDフォントはLDの当事者だけでなく、すべての人が読みやすいフォントとして、教科書や公共の場での表示など様々なところで使用されている。Word等にも搭載されており、簡単に使用することができる。多くの人の目に触れる資料を作る際には、ぜひUDフォントを選んでほしい。

実は、この記事は全て  
UDフォントで書かれている

マスコミ研究会 ゴシック体      マスコミ研究会 明朝体



マスコミ研究会  
UDフォント

## 「発達わんぱく会」とは



発達障がいにおける早期療育は大変重要である。そこで、今回は認定NPO法人発達わんぱく会の代表を務める小田様に早期療育に関するお話を伺った。

— 設立の経緯はどのようなものでしょうか。

「発達障がいを持つ子どもが、わんぱくに成長できる社会を創りたい」との思いから、二〇一〇年に設立しました。

幼児の発達障がいへの理解は進んでいますが、幼児の発達障がいには特化した教育を行える専門家の数が少ないのが現状です。しかし、発達障がいの子どもたちの特性は「出る杭」と見なされて成長の過程で打たれることが多くあります。そのため、早期の発達障がい児教育を通して、発達障がいを持つ子どもたちが「自分は自分だ」とのびのびと成長できる環境を整えることが重要だと考え、団体を設立しました。

— 「わんぱく」に込められた意味とはどのようなものでしょうか。

「わんぱく」とは、自らやりたいことを見つけ、自由に楽しむことです。その中で、私たちは発達障がいを「わんぱくに育つことが苦手」と捉えています。

たとえば、定型発達の子どもの視野を広く持ち、自分が興味を持つもので遊ぶことが自然とできます。一方で、発達障がいを持つ子どもはそれが上手くできません。興味の範囲が狭く遊びを楽しめない子や、好奇心が旺盛すぎて色々な方向を向いてしまう子がいます。しかし、適切な療育を施すことで、その子なりの興味の持ち方や注意の向け方を獲得できるので

— 「こころとことばの教室」にはどのような療育プログラムがあるのでしょうか。

子ども一人ひとりに合ったもの、ということとして「個別」「グループ」「音と色の療育」という3種類のプログラムを設けています。プログラムの中でも子どもの発達段階に合わせてクラスを作っています。

— 「こころ」の活動とは別に、「こどものひろば」の活動を始めたきっかけは何ですか。

— 子どもの障がいを保護者が受け入れやすくするためにしている工夫などはありませんか。

私たち「発達わんぱく会」の職員は、通ってくるお子さんに「障がいがある」とは思っていない。発達障がいの特徴をもつことは確かですが、私たちはそれをその子の個性だと心から思っています。

— 「こころとことばの教室」について教えてください。

現在では、先生が行う支援を言語化することが私たちの主な役割です。保護者が子どもの特性を理解していないと、保育所での支援は十分でも、小学校に入学した後には苦労します。子どもが今どのような障がいを抱えているのか、それに対してどのようなフォローを心がけるべきなのか、それができないとどう困るのかなどを正確に言語化することが必要だと考えています。

— 今後の取り組みについて教えてください。

発達障がい教育ができる人材育成に取り組んでいます。教室における臨床の中で、ゴールから逆算的に人材を育成することに取り組んでいます。そこで培ったノウハウを広めることで同じ志を持つ仲間を増やし、発達障がいを持つ子どもたちがわんぱくに成長できる社会を作りたいです。

— 子どもの障がいを保護者が受け入れやすくするためにしている工夫などはありませんか。

私たち「発達わんぱく会」の職員は、通ってくるお子さんに「障がいがある」とは思っていない。発達障がいの特徴をもつことは確かですが、私たちはそれをその子の個性だと心から思っています。

— 「こころとことばの教室」について教えてください。

現在では、先生が行う支援を言語化することが私たちの主な役割です。保護者が子どもの特性を理解していないと、保育所での支援は十分でも、小学校に入学した後には苦労します。子どもが今どのような障がいを抱えているのか、それに対してどのようなフォローを心がけるべきなのか、それができないとどう困るのかなどを正確に言語化することが必要だと考えています。

— 今まで話した療育プログラムは国の「障がい児通所支援」の一環です。税金を利用していただく必要があり。療育プログラムだけでなく、親御さんの障がいに対するネガティブな考えからなかなか来てもらえないことが多いです。一方で、「こどものひろば」は私たちの自主事業ですから、子どもなら誰でも手続きなしで参加できます。

また、定型発達の子も来られる「ひろば」なので通いやすいと考えています。何回か通って、スタッフと顔見知りになったり制度を知ったりすると、障がいに関わらず我が子の発達のために発達相談に通わせようという考えになって、手続きをしてもらえることもあります。

— ひろばというワンクッションを置いてあげること、療育に繋がやすくしているんですね。

保護者とは、障がいの特性ではなく子どもがどう過ごしているかの話をするだけです。「障がいを受容する」のではなく、「我が子



## PROFILE

創業者・理事長 小田 知宏 (社会福祉士・保育士)

1997年東京大学経済学部卒業後、丸紅株式会社入社。

2000年より障がい福祉企業に転職。2010年4月より筑波大学および大学院にて科目等履修生として発達心理や言語聴覚などを学ぶ。同年12月にNPO法人発達わんぱく会を設立し理事長に就任、現在まで活動している。



## NPO 法人発達わんぱく会

2010年設立。発達障がいの早期発見・早期療育を行う「こころとことばの教室」を軸に、保護者向けの相談支援事業、療育施設向けの開設・運営支援事業や保育園・幼稚園への巡回支援事業など、発達障がいに関する社会課題に多方面からアプローチしている。